

新たに追加する活火山及び範囲に変更があった活火山

3. 天頂山
6. 雄阿寒岳
12. 樽前山

3. 天頂山 Tenchozan

緯度 44° 02' 39" 経度 145° 05' 08" 標高 1046m [世界測地系]

新たに活火山とする理由

一万年以内に噴火があることから、新たに活火山とする。

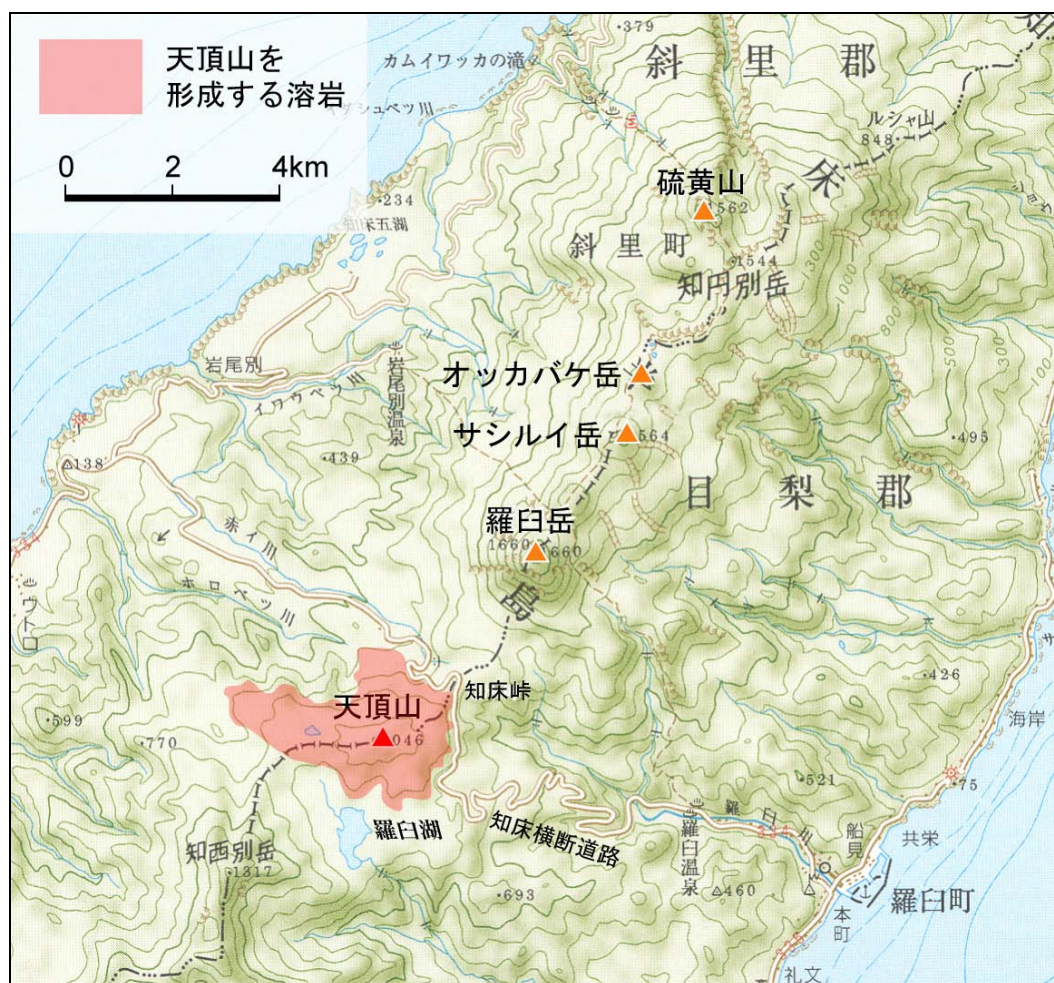
天頂山は、北海道東部の知床半島中央部に位置する。山体は比高 300m、東西約 4 km、南北約 2.5km の安山岩質の溶岩からなり、溶岩じわなどの新鮮な地形が保持されている。山頂部には北東～南西方向に配列する延長 1800mの火口列がある（勝井・他、1985）。この火口列は直径 250m以下の爆裂火口が 15 個以降重合したもので、火口地形がよく保存されている。

天頂山の最新の噴火は、約 1900 年前の水蒸気爆発である。その噴火の最末期にはマグマ水蒸気噴火あるいは小規模なマグマ噴火も起きたと考えられる。これらの一連の噴火の結果、上記の北東～南西方向に配列する数多くの爆裂火口が形成されたと考えられる（後藤・他、2005）。

現在は、噴気活動は認められない。

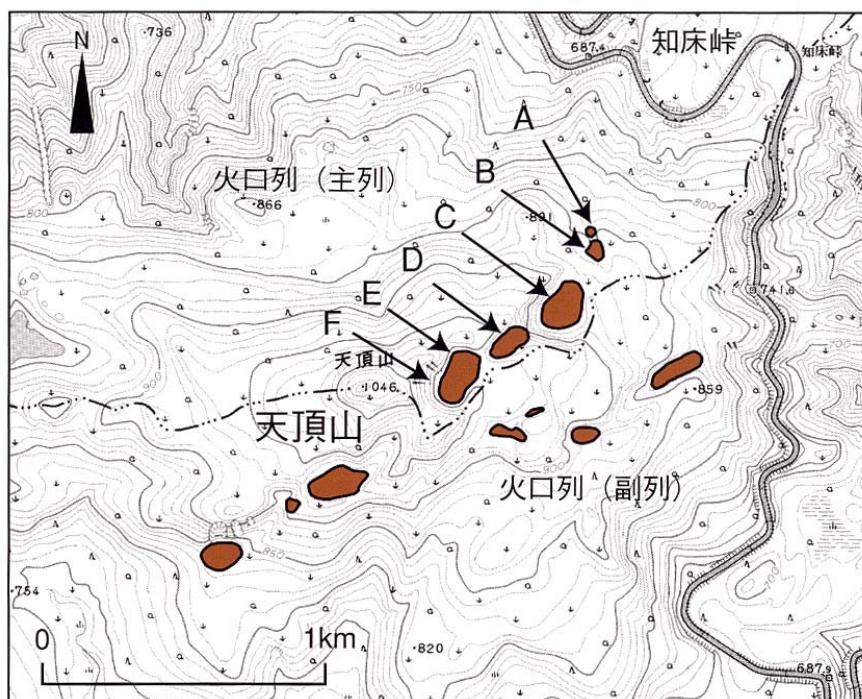
火山周辺の自治体

北海道 羅臼町 斜里町

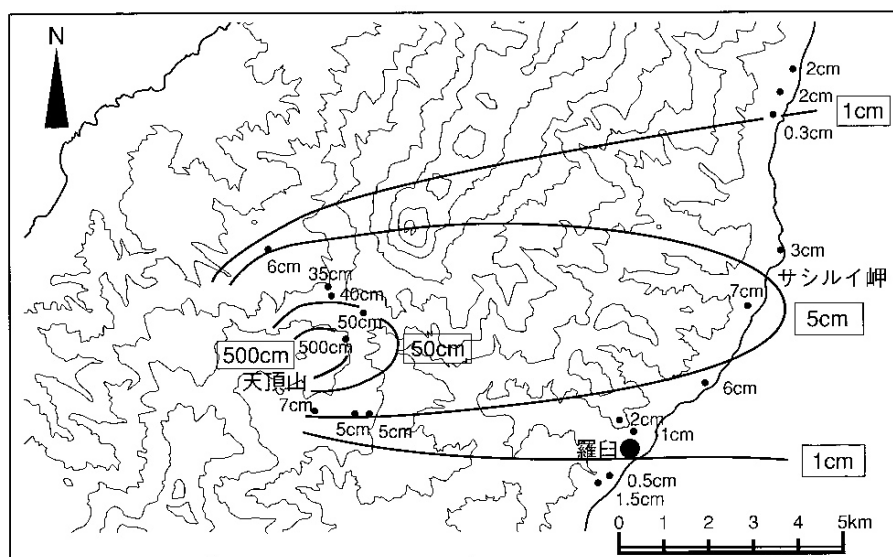


天頂山周辺（国土地理院 1/20 万地勢図「知床岬」を使用）

後藤（2007）をもとに作成



天頂山の火口（赤色）（後藤、2007より）



天頂山降下火砕物の層厚曲線（190年前の噴火）（後藤、2007より）

引用文献

- 後藤芳彦・沢田惇史・横山由・合地信生・佐々木寿・中川光弘(2005) 北海道知床半島天頂山火山の噴火年代. 日本火山学会講演予稿集.
- 後藤芳彦(2007) 「天頂山」ほか. しれとこライブラリー⑧「知床の地質」(斜里町立知床博物館編), 222pp, 北海道新聞社.
- 勝井義雄・五十嵐八枝子・合地信夫・Kevin Jhonson・池田トシ彦・大瀬昇(1985) 知床半島遠音別岳原生自然環境保全地域及び周縁の地質. 遠音別岳原生自然環境保全地域調査報告書, 37-63, 環境庁自然保護局.

6. 雄阿寒岳 Oakandake

緯度 43° 27' 15" 経度 144° 09' 53" 標高 1370m (雄阿寒岳) [世界測地系]

新たに活火山とする理由

一万年以内に噴火があることから、新たに活火山とする。

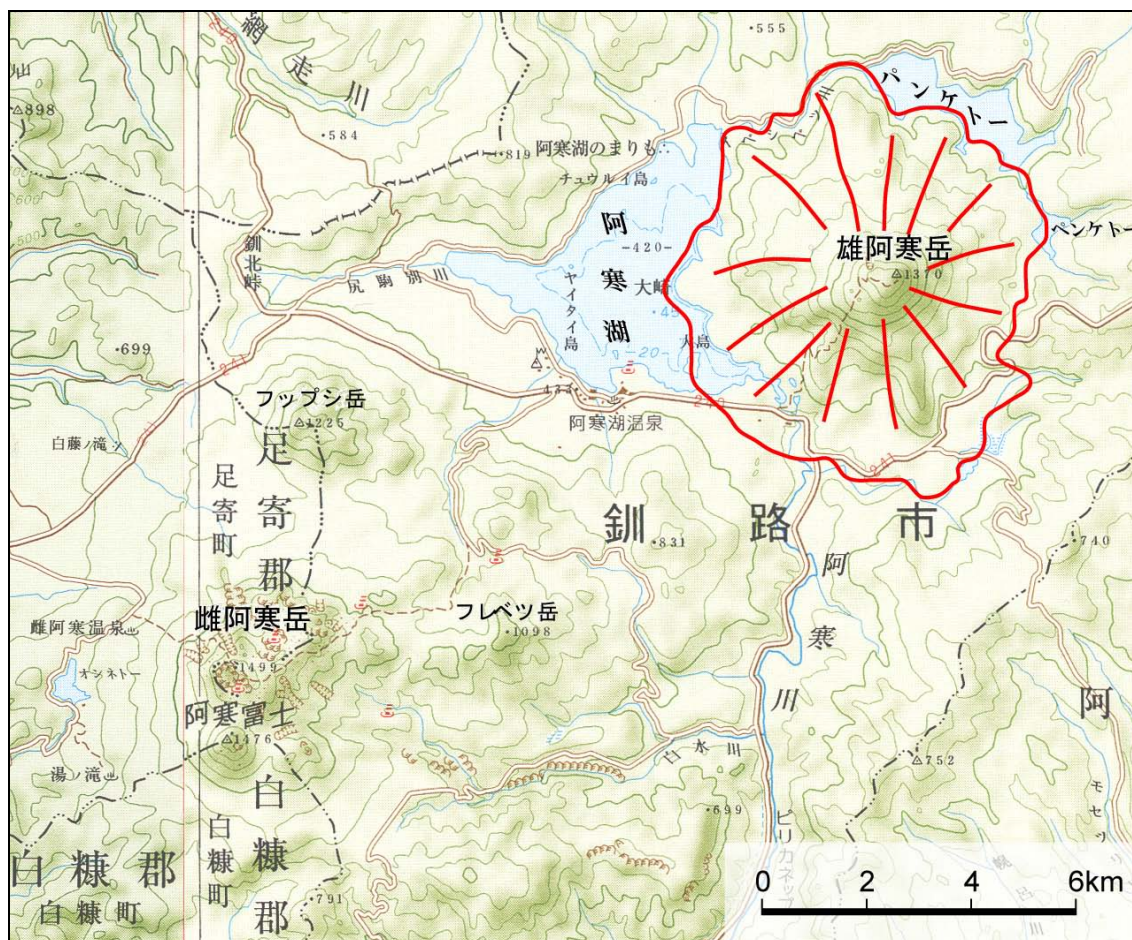
雄阿寒岳は、北海道釧路市の北部に位置する火山で、雌阿寒岳、フップシ岳、フレベツ岳と共に阿寒カルデラの後カルデラ火山のひとつである。西山麓のカルデラ床には阿寒湖がある。

約 5000 年前、二ツ岳付近の火口より、スコリア、軽石及び安山岩質類質岩片からなる雄阿寒岳降下火砕物 (Oafa) を山体南東部に噴出した後、山体南部に溶岩流が流下した。約 5000～2500 年前、山頂付近でストロンボリ式噴火、火砕丘を形成し、溶岩流が山体北部及び東部の広い範囲に流下した。その後、約 2500～1000 年前まで、山頂火口群で水蒸気爆発が発生した (玉田・中川, 2009)。

北山腹の北火口には弱い噴気活動の記録がある (佐藤, 1965) ほか、釧路地方気象台が 1991 年に実施した現地観測では、10 箇所以上で弱い噴気が認められた。最近では、札幌管区気象台が 2009 年に実施した上空からの観測でも地熱域が確認されている。

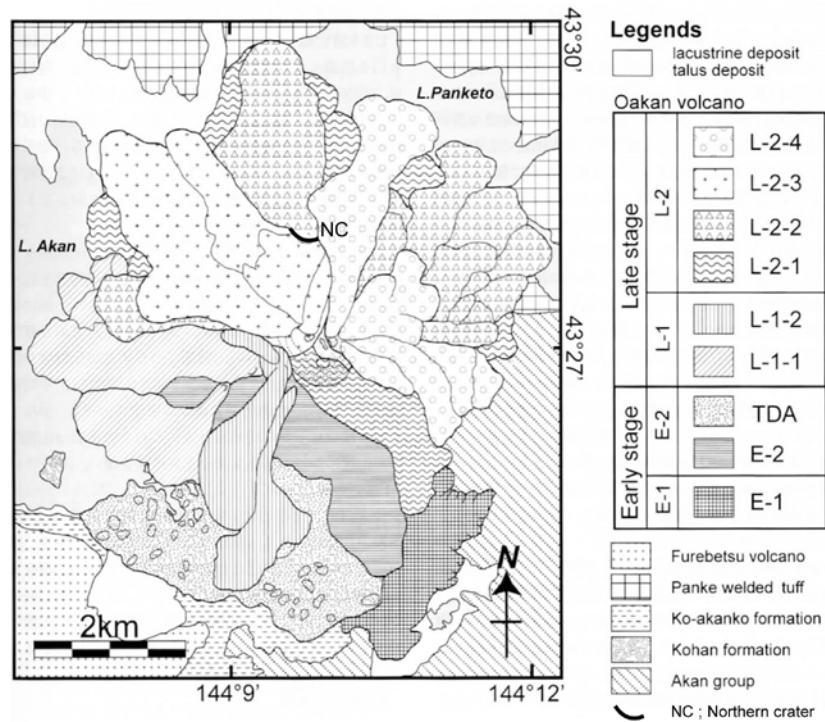
火山周辺の自治体

北海道 釧路市

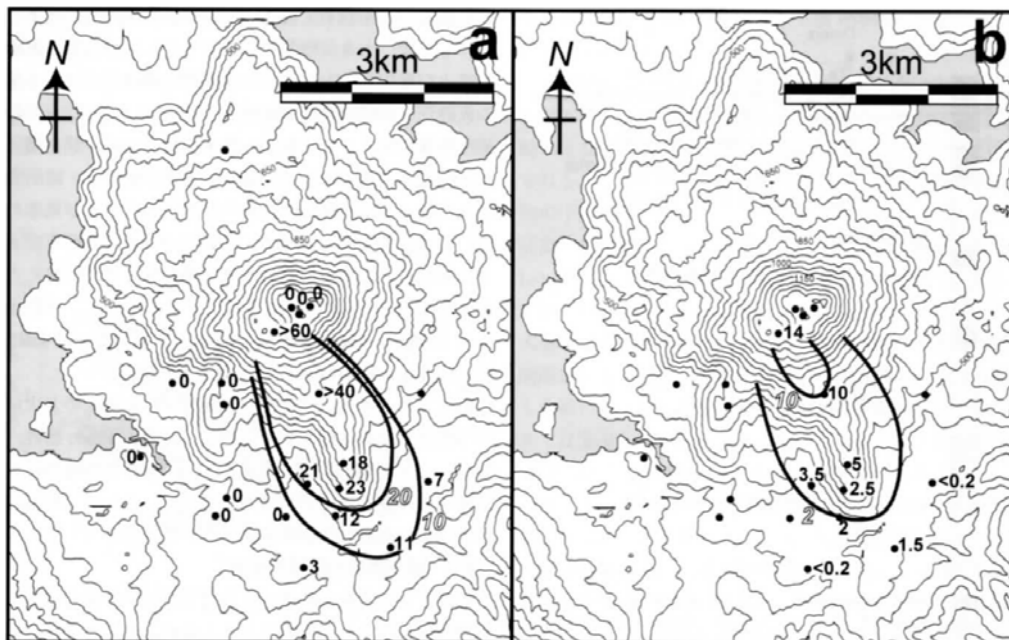


雄阿寒岳周辺 (国土地理院 1/20 万地勢図「斜里」「北見」を使用)

玉田・中川 (2009) をもとに作成



雄阿寒岳と周辺地質図 (玉田・中川、2009 に加筆)



雄阿寒岳降下火砕物 (Oafa) の等層厚線図 (a) 及び等粒径線図 (b)

(玉田・中川、2009 より)

引用文献

佐藤博之(1965) 5万分の1地質図幅「阿寒湖」および同解説書. 地質調査所, 82p.
 玉田純一・中川光弘(2009) 北海道東部, 雄阿寒岳火山の形成史. 火山, 54, 4, 147-162.

12. 樽前山 Tarumaesan

緯度 42° 43′ 01″ 経度 141° 21′ 32″ 標高 1102m (風不死岳)

緯度 42° 41′ 26″ 経度 141° 22′ 36″ 標高 1041m (樽前山) [世界測地系]

活火山の範囲を変更する理由

樽前山に隣接する風不死岳においても一万年以内に噴火があることから、活火山の範囲を拡大する。

樽前山は、北海道千歳市の西端に位置する火山で、恵庭岳、風不死岳と共に支笏カルデラの後カルデラ火山のひとつである。樽前山の火山活動は約 9000 年前に始まり、プリニー式噴火で大量の碎屑物を噴出した。6000 年あまりの休止期の後、約 3000 年前に 2 回の爆発的なプリニー式噴火が発生し、碎屑物や火砕流、火砕サージが噴出した。その後、約 2500 年の休止期があり、江戸時代になって噴火活動が再開した。1667 年には噴出物量約 4 km³、1739 年には噴出物量約 1 km³ の軽石噴火が発生した。また、1909 年噴火では現在山頂に見られる溶岩ドームが生成している。

風不死岳は支笏湖の南岸に面する火山で、樽前山の北北西に位置し、山頂相互の距離は約 3 km である。約 8500 年前にはマグマ水蒸気噴火が発生して火砕サージが発生した。約 4500 年前には水蒸気噴火が発生した(古川・中川、2009)。現在は、噴気活動は認められない。

火山周辺の自治体

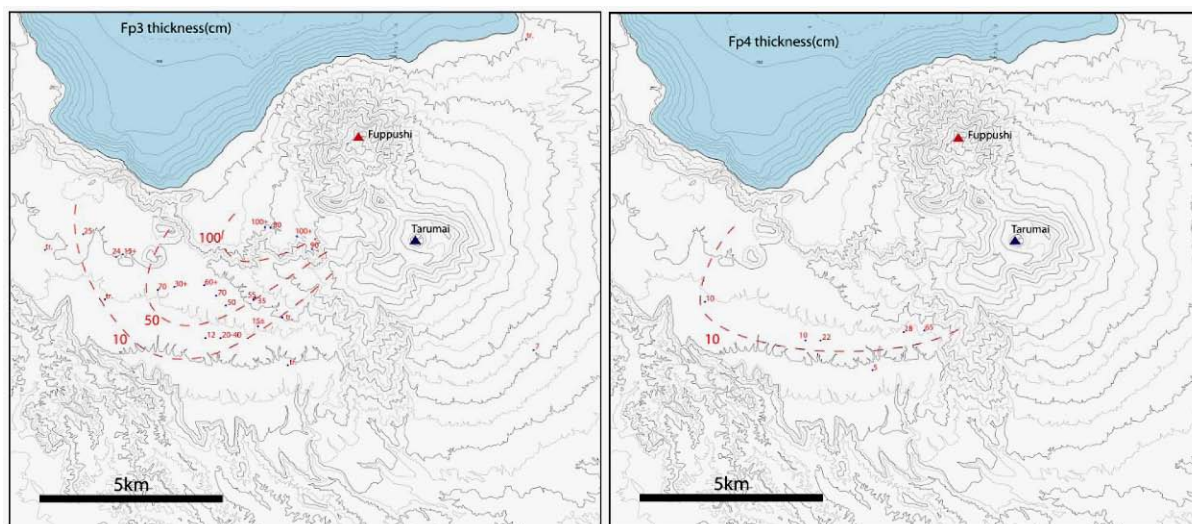
北海道 千歳市 苫小牧市



風不死岳周辺 (国土地理院 1/20 万地勢図「札幌」を使用)

古川・中川 (2010) をもとに作成

【風不死岳に関する新たな調査結果】



風不死岳完新世噴火堆積物（左 Fp3（8500 年前）、右 Fp4（4500 年前））

（産総研・北大（地惑システム）、2010 より）

引用文献

古川竜太・中川光弘(2009) 後支笏カルデラ，風不死火山の爆発的噴火活動と年代．日本火山学会講演予稿集，41.

古川竜太・中川光弘(2010) 樽前火山地質図 1：30,000. 火山地質図 15, 独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター.

産業技術総合研究所・北海道大学(地球惑星システム科学)(2010) 後支笏カルデラ，風不死岳の完新世の噴火活動．第 114 回噴火予知連絡会資料.